

# 研究所だより

第444号  
2022年 6月20日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“ てるてる坊主 てる坊主 あした天気 に してくれ



いつかの夢の 空のように 晴れたら金の鈴(すず) あげよ ”

『 てるてる坊主 』 1921年(大正10年) 童謡・唱歌



～ 紫陽花の花が色鮮やかに咲いています！ ～

6月13日(月) 気象台から四国地方が梅雨入りしたとみられると発表がありました。平年より遅い梅雨入りで、昨年と比べると1ヶ月以上も遅い梅雨入りだそうです。登下校中の子どもたちのカラフルな傘が通学路を色鮮やかに飾り、庭先や道路沿いの紫陽花やたんぽの苗が雨を受け揺れています。

各学校では、プール開きも終わり水泳の授業が始まっていることでしょうか。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていきたいと思ひます。

これからますます湿度も高まって不快な蒸し暑さとなるため、体調管理には充分留意しましょう。そして、基本的な感染対策(マスク、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理)の徹底も心がけましょう。



## ☆2022年度転入教職員地域学習会開催☆

本年度第1回転入教職員地域学習会を5月27日(金)中央公民館において開催しました。第1講座は教育長より人権教育推進計画の取組についてと教育長の思い等を、第2講座はじんけん課長より本市の人権教育の取組等について話していただきました。そして、第2回転入教職員地域学習会を6月10日(金)布福祉センターにおいて開催しました。第1講座は館長より布地区の概要と福祉センターの役割等についての講話とフィールドワークを、第2講座は地元のみなさまと座談会形式で意見交流を行いました。



第1回「①教育長の講話



②じんけん課長の講話」



第2回「館長の話」



「フィールドワーク」



「座談会」

＝第1回＝

○教育長の土佐清水に対する情熱がよく伝わってきた。市の取り組みとして、地域に密着した教育活動を行っていることがわかり、とてもおもしろいと感じる。人権教育の実践例をもっと知りたいと思いました。

清水の歴史を振り返り、今に至るまでをくわしくなぞっていただいたので経緯がよくわかった。他人ごとと思わず、自分ごととして考えていきたいし、教育の場にも返していくべきだと思った。

＝第2回＝

○協力者のみなさんの話の中ですごく値打ちのある言葉が聞けました。その中で子どもたちを指導する立場で、本質を正しく知り、そこから差別することはおかしいことをしっかり伝えなければならないと思いました。

## ☆第1回教育研究所運営審議会開催☆

6月7日(火)に2022年度第1回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の役員選出と事業計画(下記事業計画参照)についての説明・質疑、意見交換を行いました。

役員として、会長に矢野川 清さん、副会長に渡辺 昌幸さんが選出されました。事業計画については、関係機関と連携しながら取り組んでいきたいと思ひます。

〈2022年度要覧より〉

＝本年度の主な事業＝

(1)教職員の資質向上の取組

【補助事業】

①教育研究推進事業：教育研究集会(教研活動)の運営：9部会

②教育研究活動事業：研究協力校(2校：三崎小・清水中)

(2)転入教職員研修会(地域学習会)の開催(年2回：①5/27 ②6/10)

(3)調査研究の推進

①外国語・英語教育(授業づくり・授業改善)の推進

(小中連携(授業支援)、教研外国語部会・教科会への参加支援、教材の開発・研究等)

②学力向上検討委員会(連携・支援)

(4)豊かな心と健やかな体の育成の取組

①実態把握のための定期的な学校訪問

②教育支援コーディネーター(あすなろネットワーク)連絡協議会の開催(年4回)

③適応指導教室「あすなろ教室」への支援

④SSW・ORSC・YCCとの連携

(スクールソーシャルワーカー・アウトリーチ型スクールカウンセラー・ヤングケアラーコーディネーター)

(5)情報教育に関する事業(HPの更新等)

(6)資料収集に関する事業(図書・教材などの紹介等)

(7)刊行物

①『研究所要覧』の発行

②『清水の教育』の発行

③『研究所だより』の発行

(8)教育研究所運営審議会(年3回：①6/7 ②11月予定 ③3月予定)

(9)高知県教育研究所連絡協議会(年2回)

・第1回春季教育研究所連絡協議会(5/25 オンライン会議)

・第2回秋季教育研究所連絡協議会(11/25 黒潮町大会)



## ＝研究協力校（研究テーマ・研究概要）の紹介＝

前号でお知らせしました「三崎小学校」「清水中学校」の研究テーマ、研究概要を紹介します。

### <三崎小学校>－研究主任：岡 佐保 校長：岡村 相良

#### 1. 研究テーマ

地域の特色を生かし『地域との連携・協働』による自立をめざした児童の育成

#### 2. 研究の概要

第3期高知県教育振興計画の6つの取り組みの方向性の一つである、「地域との連携・協働」及び土佐清水市教育振興基本計画Ⅲの6つの取り組みの基本方針の一つである、「地域との連携・協働」を推進する為、総合的な学習の時間や社会科等の時間を中心としてふるさと学習に取り組み、地域の方との豊かな出会いを通して地域の方の温かさや自然を再発見し、児童の自立を目指す。

#### 『目標』

- ① 地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通じて、歴史や課題を理解し故郷を愛する心情を育てる。
- ② 「山・川・海の学習」を通じて地域や文化について学び理解を深める。
- ③ 森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える

#### 『活動計画』

- ・校内及び周辺環境整備（上級生・地域の方々・保護者）
- ・シュノーケリング体験（サンゴ生態学習）・川の生物調査・間伐体験・グラスボート乗船・ガイド体験等。学校周辺の海・川・山の学習の一環として体験学習をし、地域の豊かな自然と生き物に触れ環境を大切にしようとする意識化。（高）
- ・夏休み期間中に各地区子ども会で川清掃等。
- ・海洋館見学：海洋生物、生態を学習（全）
- ・田植え（中・高）、稲刈り（中・高）、精米、餅つき大会（全）を通して、食物の恵みや山と川のつながり等を考える。
- ・フィールドワーク・・・ビニールハウス、土佐食、ケンピ工場等地域の工場や施設の見学。
- ・ディサービスへの訪問。（1年、2年、5年、6年）
- ・高齢者の方への絵手紙の発送（全）



### <清水中学校>－研究主任：橘 智子 校長：斧川 哲也

#### 1. 研究テーマ

「学校における教育活動のオンライン配信による教育的効果について」

～YoutubeLive配信及びGoogleMeet（Web会議システム）の有効活用を目指して～

#### ○研究テーマ設定の理由

本市においても、他市町村と同様に、昨年度生徒1人1台のタブレット端末が導入されたことで、本年度はほとんどの教科でタブレット端末を含むICT機器の活用の幅が大きく広がってきている。

本年度は、その活動の延長線上の取組として、学校の教育活動をオンラインで保護者向けにLive配信することで、学校とのつながりをより身近に感じることができるシステムを構築していきたい。また、平行して、不登校の生徒や特別な配慮が必要で通常学級に入れない生徒への具体的な対応策としてもオンラインLive配信を活用し、その教育的効果を検証したいと考えている。

#### 2. 研究の概要

##### （1）研究内容

- ①授業や行事等の教育活動をYoutubeLive配信やGoogleMeetなどのWeb会議システムを活用して、保護者が閲覧できる体制を構築する。その際には、高知県教育委員会から全生徒へ配布されているGoogleアカウントを活用しオンラインにアクセスしてもらう。（学校側が限定して範囲内で配信することを前提とする）
- ②近い将来、生徒がタブレット端末を家庭に持ち帰る状況も想定し、まずは保護者のオンライン配信を通して、そこで生じる様々な成果や課題等を集約し、その対応策を検討する。
- ③不登校の状況にあって登校できない生徒や、登校はできていても通常学級の活動に参加することができない生徒が、希望する教育活動をオンラインLiveで参観できるようにすることで、生徒が自ら次の段階へステップアップできる手助けとなるよう工夫する。

##### （2）研究体制

- ①企画運営委員会における協議検討を通して運営方法を協議決定する。
- ②情報教育担当教員を中心に各教科で関係教材等の操作・運用ができる体制を構築する。
- ③運用に関する評価・検証を、GoogleForms等を活用して意見集約を行い、改善策を検討する。

##### （3）研究計画

- ①1学期
  - ・登校はしているが授業に参加できない生徒の希望に沿って試験的な取組をすすめる。
- ②夏季休業中
  - ・家庭へのLive配信テストをネット環境下にある家庭の保護者・生徒の協力を得て実施し、課題を集約し、改善につなげる。
- ③2学期
  - ・9月体育祭、10月文化祭、11月第2回防災小説全国オンライン交流会をオンラインLive配信し、その取組の検証を配信対象の保護者及び生徒の協力のもと行う。
- ④3学期
  - ・卒業式をLive配信（予定）
  - ・活動の総括。全体的な成果と課題の検証

